出会う 広がる 地域おこし協力隊

地域の皆さんと一緒になってまちづくりや地域にある資源の活用に取り組む「地域おこし協力隊」。本市で活動する隊員を紹介します。

自伐型林業の推進で森里海の営みを支えたい

木下（きのした） 真弓（まゆみ） さん
配属先　市農林整備課

― プロフィール ―

天草市出身。天草の情報発信や地域資源の掘り起こしなどを行う会社「シマノタネ」の代表も務める。
趣味は弁当づくり。
令和６年７月から協力隊員。

長期的な森林経営で採算性を高め、低投資・低コストで始めることができる「自伐型林業」。協力隊員として、環境保全型の林業としても注目されている同林業を推進する業務を担っています。

熊本市内に住んでいた令和2年7月に、県内で豪雨災害が発生しました。その時、球磨川流域へ災害ボランティアに行きましたが、異常な崩れ方をしている山林に衝撃と恐怖を覚えました。天草へのUターンを考えていた時期でもあったので、「島で暮らすなら、もっと山のことを知っておくべき」と自伐型林業研修を受講。研修では技術の習得に加え、「森里海の循環がみんなの〝自分事〟になるような取り組みがしたい」という思いも生まれました。天草市は自伐型林業の推進もしているので、明るい未来を感じています。

天草市では、雑節や天然塩を作る時、また木を使った製品作りなど、木を生かす取り組みが盛んに行われています。自伐型林業の視点とスキルを持つ若者が林業で〝なりわい〟を作り出せれば、自然との共生や防災、自助・共助など、地域の持続可能性も高まるのではないかと思っています。

これから天草ならではの自伐型林業へ向け、皆さんと一緒にできることを模索していきたいです。

▲市有林の調査をはじめ、持続可能な森里海のあり方を模索

天草をデザインで盛り上げたい

細國（ほそくに） 由梨香（ゆりか） さん
配属先　市産業政策課

― プロフィール ―

福岡県出身。大学卒業後は営業職や経理の仕事に携わり、協力隊員になる前の半年間はデザインを学ぶ。
趣味は山登りや音楽など。
令和６年７月から協力隊員。

大学の先輩が天草で生活をしていたので、たまに遊びに来ていました。天草の豊かな自然や食材に魅力を感じていたこともあり、「天草に住んで、天草の役に立ちたい」と協力隊員に応募しました。

協力隊員としての任務は、デザイン経営を通して企業の価値を向上させるための普及啓発や、市内デザイナーのコミュニティ形成、デザイナーと企業のマッチングなどです。このデザイン経営とは、顧客の視点に立ってビジネス上の課題やニーズを見つけ、解決策を考える経営手法のことをいいます。

また、「デザイン協議会」の設立と運営を目指した取り組みも行っており、天草に合った協議会を設立できるよう、先進地などに出向き調査を進めています。

その他にも、市の事業で今年４年目となる、人材育成の実践的講義である「デザインプロデューサー道場」の運営補助なども行っています。

私自身、天草ではまだ人とのネットワークが十分でないため、たくさんの人と関わり、いろいろな人の話を聞いていきたいと思っています。そして、市内の企業に利益が生まれるよう、地域の人たちと一緒に天草をデザインで盛り上げていきたいです。

▲デザインプロデューサー道場の参加者と長崎県雲仙市を視察

▲隊員の募集情報

curator's recommendation

学芸員のイチオシ

天草市には、考古学や古生物学などの専門的知識を持つ学芸員がいます。その学芸員が、天草の歴史や自然などに関する〝イチオシ〟を紹介します。

文化課　牧野　寿美礼

Vol. 020　牛深遠見番所跡（牛深町）

◀牛深遠見番所跡

◀遠見番所跡からの景色

江戸時代の天草は、日本唯一の貿易港である長崎と近く、貿易のために長崎へ来航する唐船やオランダ船が付近を通行することもありました。鎖国政策を行っていた江戸幕府にとって、天草は外国船を監視するうえで重要な場所の一つだったのです。

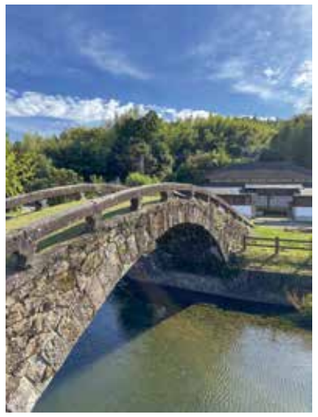
遠見番所は、抜荷（ぬけに）（密貿易）や異国船の取り締まりなどを目的とした施設で、九州諸藩に設置が義務付けられるなか、天草ではまず寛永18（1641）年に富岡と大江﨑、魚貫﨑に設けられました。その後、享保２（1717）年に牛深、﨑津に番所が増設され、最大で５カ所の番所が海上の監視などにあたったことが古文書などに記されています。

牛深遠見番所跡は遠見山公園内にあり、その高台から牛深の町並みや広い海を大パノラマで楽しむことができます。双眼鏡やカメラのズーム機能がなかった江戸時代に、主に目視のみで海上を監視することが可能だったのか疑問に思う人もいるかもしれませんが、実際にこの場所から眺めてみると、人や船をはっきりと確認できます。

牛深の歴史と大自然の空気を感じながら、江戸時代の遠見番人たちと同じ場所で、魅力ある景色を楽しんでみませんか。

天草 見どころ図鑑

山口の施無畏橋（せむいばし）（本渡町本渡）



▶奥に見える建物が無畏庵

染岳の登山口にある無畏庵（むいあん）の参道として明治15年に架けられた橋で、県の重要文化財に指定されています。

現存する市内最古の石造アーチ橋である楠浦の眼鏡橋より前の明治４年に橋が架けられましたが、その後崩れ落ちたため、現存するのは再建されたものです。長さ約22m、幅約３mの橋は、祇園橋と同じ下浦石が用いられており、特にアーチ中央部は輪石のみで構成されています。

石積みにはかずらが絡み、見るからに古めかしくも優美な姿を川面に映しています。

★ここに注目

橋の下を流れる町山口川にはコイが泳ぎ、５月末ごろにはアジサイが開花するほか、ホタルが飛び交うなど、辺りを明るく彩ってくれます。